

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	文化財課長 丹羽野 裕	電話番号	0852-22-6468
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	古代出雲歴史博物館管理運営事業		
目的	(1) 対象	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	
	(2) 意図	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を生かして、理解してもらう。	
事業概要	島根の歴史文化に関する研究成果の情報発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を理解してもらうため、以下のような業務を実施。 ・学芸業務：県内外の方々に、島根の歴史文化を知ってもらうため、県内の出土品や歴史資料の展示公開及び情報発信を実施する。 ・交流普及業務：県内外の方々に、島根の歴史・文化を理解してもらい知ってもらうため、各種講座やイベントなど交流・普及事業を実施する。 ・広報・管理業務（指定管理）：県内外の方々に、郷土の歴史・文化を発信する重要な拠点施設になることを目的に、指定管理者に委託して、効果的な広報及び適切な維持・管理を実施する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 入館者数	目標値		220,000.0	220,000.0	200,000.0	200,000.0	人
		取組目標値						
	式・定義 入館者数	実績値	255,937.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	376,475	387,960
うち一般財源 (千円)	283,270	303,223

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基いた現状）

<ul style="list-style-type: none"> 出雲大社「平成の大遷宮」の効果が薄れたこともあり、入館者数は前年度比10%減の25万5千人余りとなった。 利用者は県内20%、県外80%（利用者満足度調査アンケートによる） 学芸業務の成果として企画展、特別展及び特集展を6回（年度末開始の1回を含む）実施した。 普及交流事業として博学連携プログラムを実施しており、昨年度は学校団体で84校、5,368名の来館利用があった。 利用者満足度調査で、観覧後の感想を「大変良かった」、「良かった」とした者が約98%と非常に高かった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> マスコミや地元関係者（商店街や公民館（コミュニティセンター）、旅館など）に向けた展覧会の内覧会を実施し、地域向けの情報発信を強化した。 誘客に向け、新たに、館内にツアーデスクを設けて、出雲大社と歴博を組み合わせたツアーを実施した。 神門通り100周年記念事業に合わせ、アテナントが神門通り歴史絵巻や紙芝居を制作するなど、地元と連携したイベントを行い、認知度向上のためのPRを行った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 出雲大社大遷宮後の入館者数の減少傾向を緩和していく必要がある。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 出雲大社を訪れる観光客の取り込みが十分できていない。 歴博の認知度が十分でない。 県内からの入館者数の割合が低い。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 出雲大社と歴博をセットにしたPRの強化 地域の関係者との連携の強化 外国人観光客誘客策の強化

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者による県外へのセールス活動の強化、海外からの誘客に向けたPRの強化や受入体制の充実を図っていく必要がある。 地元関係者やマスコミなど地域との連携を引き続き強化し、地域に向けたPRを行っていく必要がある。 今後とも、展示内容の充実、施設の適切な管理運営を行っていく必要がある。 専門的知識を有した人材の確保など、長期的視点に立った運営が求められる。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--